

熱帯スイレン温室明装工事に伴う *Victoria* 属の移植と仮設プールでの栽培管理

平井健一郎・荒木大蔵・濱谷修一

2018年6月下旬から12月にかけて、熱帯スイレン温室明装工事を施工するため、例年夏季に行ってきたオオオニバス類の栽培並びに次年度育成用の採種が行うことができなかった。そこで、大温室前に設置した仮設プール(3m×3m×0.8m)にてオオオニバス *Victoria amazonica* とパラグアイオニバス *V. cruziana* の栽培を行った。

移設まで

パラグアイオニバスについては、熱帯スイレン温室FRP植栽柵中で7号スリット鉢植栽株2株を保有していたが、2年間植え替えていないことから根詰まりしていた。これらのうち、生育の成績が良いと判断した一株を5月9日、プラ舟(84cm×53cm×20cm)に植え替え、養成した。オオオニバスについては一株しか保有していなかったため、その株を、同年5月15日に熱帯スイレン温室内の木製植栽柵(180cm×180cm×60cm)からパラグアイオニバスと同様の大きさのプラ舟へ移植し、移設まで養成した。

移設(写真1)

6月26日曇天を見計らって、大温室前に設置した仮設プール(3m×3m×0.8m)2槽へ移設した。

移設手順は下記の通り。

- ① 移設に支障となる外縁の大きな葉を取り除き、展葉した葉が3枚付いた状態で、プラ舟中に重ね入れる
- ② 一輪車に乗せ大温室正面に移動、棚板を使って仮設プール中にスライドさせながら移し入れる
- ③ 株の中心が光線不足とならないようプラ舟の下にコンクリートブロックを立て=38cm高。水深を調整した。なお、パラグアイオニバスの残るもう一つのスリット鉢も同じ水槽内に、コンクリートブロックを立てて水深を調整し、移設した。

移設後の栽培管理

以降の栽培管理は下記のとおり。

- ① 水温は特に調整せず、補水は蛇口から井水をそのまま注ぎ込んだ。
- ② 毎月2回固形の油粕施肥
- ③ 古葉は順次除去

パラグアイオニバスについては展開する葉は少なく、小葉に留まり生育が振るわなかったことから、一番花が観察されるも株養成の観点から摘花した(8月16日)。以降しばらく摘花していたが、秋も近くなり採種機会が少なくなる懸念から、8月下旬以降、採種すべく順次開花させた。

葉の養成は最大で直径80cm程度で、プール一面を覆うほど葉を茂らせることはなく、生育盛期の大きな葉は同時に3枚程度展開するに留まった。秋季が近づくと直径30cm前後の葉を4~5枚程度展開させた。

採種

8月28日以降から交配作業を始めた。丁度両種の開花がそろった8/28に、自殖とともに交配も行った。2日目の開花が始まった花を切開し、人工授粉を試みたが両種とも花粉が確認できなかった。同時に行った自殖においても結実には至らなかった。9月6日と16日の *V. amazonica* 開花時には花粉を確認することができ、自殖した。その結果、18粒と44粒それぞれ採種することができた。

温室への取り込み(写真2)

10月9日屋外の仮設プールから大温室正面池内に移設した。こちらへの移設後も開花時(10月下旬~)に交配を試みたが、屋外仮設プールと同様花粉の確認ができず、採種には至らなかった。



写真1 仮設プールへ移設（2018年7月1日撮影）



写真2 大温室正面池へ移設（2018年10月9日撮影）